



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

証券コード
5741

UACJが目指す“軽やかな世界”

株式会社UACJ

代表取締役 社長執行役員 田中信二

2024年10月15日（火）



- 1 | **UACJの概要** 2~11
- 2 | **UACJの強み** 12~17
- 3 | **2030年に向けて** 18~37

UACJの概要



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

2013年10月、古河スカイと住友軽金属工業の経営統合によって
グローバル規模のアルミ圧延会社が誕生（世界2位グループの生産規模）

The logo for UACJ is displayed in a large, bold, blue font. The letters are stylized, with the 'U' and 'A' being particularly prominent. A light blue horizontal bar is positioned below the letters, extending from the left side of the 'U' to the right side of the 'J'.

2023年で経営統合から10周年、事業開始から125周年を迎えました

Furukawa-Sky Aluminum Corp. 古河スカイ

1910

古河電気工業(株)が
アルミニウム電線の販売を開始

1964

スカイアルミニウム(株)を
設立

2003

古河スカイ(株)設立

1935

住友金属工業(株)設立

1898

「住友伸銅所」で
アルミニウム圧延事業を開始

1959

住友軽金属工業(株)設立
(住友金属から分離)

Sumitomo Light Metal Industries, Ltd. 住友軽金属工業

2013
UACJ

2023

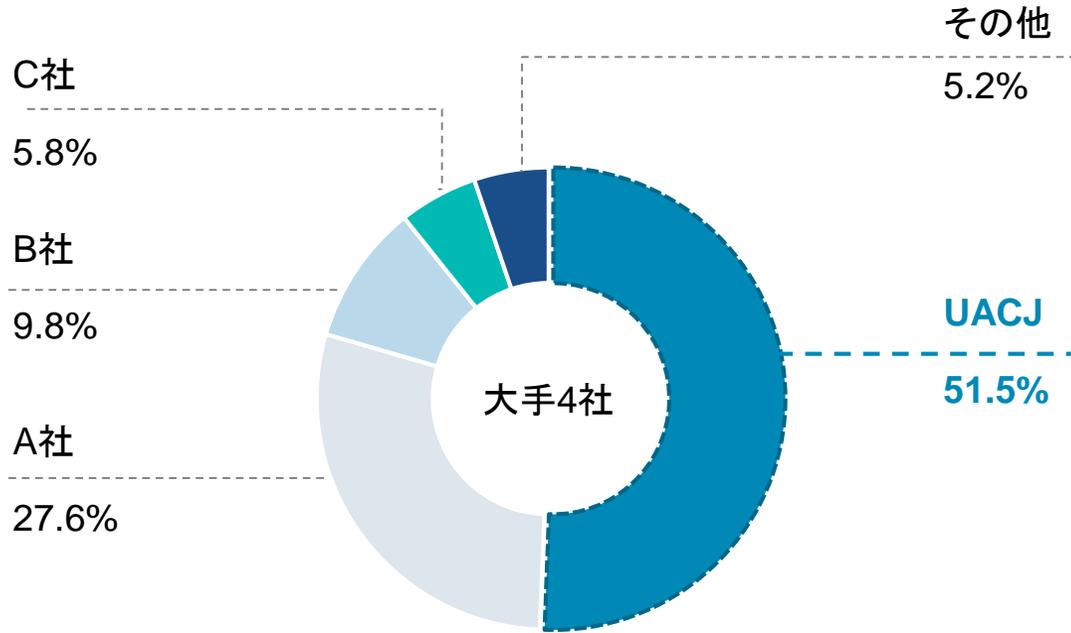
10th
Anniversary

国内における圧倒的なマーケットシェアと、世界トップクラスの生産量

国内におけるマーケットシェア

FY23時点

アルミニウム圧延品国内生産量比率(%)

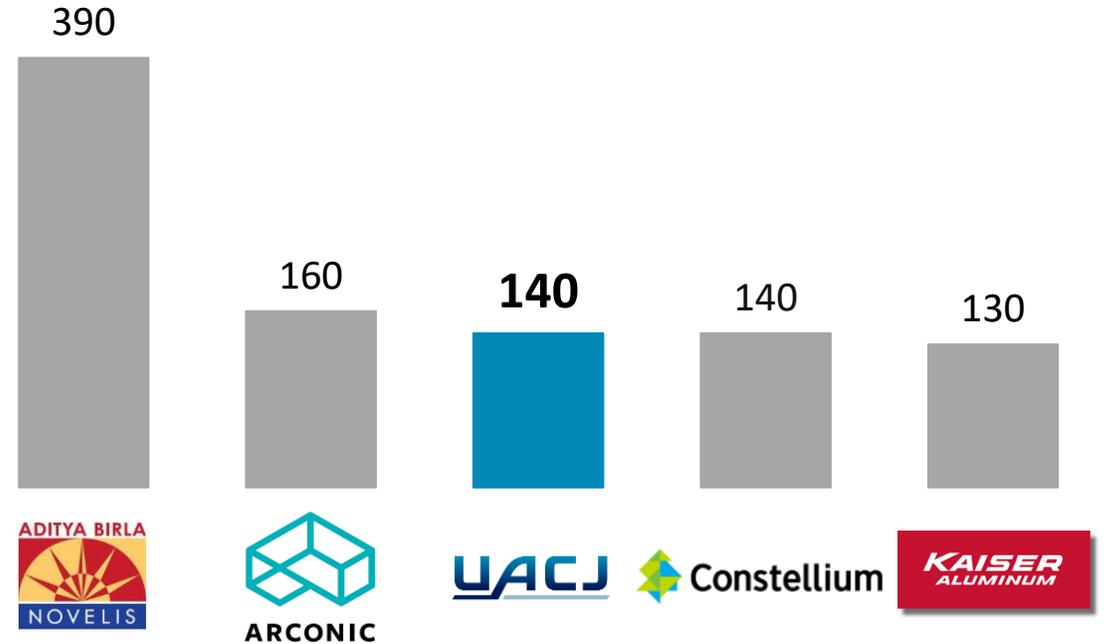


アルミニウム圧延品市場で約5割のシェア。
国内における圧倒的なマーケットシェアを有しています

グローバルにおける生産量ランキング

FY22時点

アルミニウムシート・板材グローバル生産量(万トン)



生産量は年間約140万トンに達し
世界トップクラス的能力を有しています

様々な改革を断行した結果、国内&海外事業共に稼ぐ水準が一段上昇

構造改革の 完遂

- 損益分岐点の引き下げ
- 最適生産体制の構築
- 事業の選択と集中
- 取締役、執行役員の人数削減

値決めの 構造改革

- エネルギーサーチャージ制の導入
- 物流費上昇の転嫁スキーム
- 物価高騰、環境対応投資に伴う
ロールマージンの値上げ

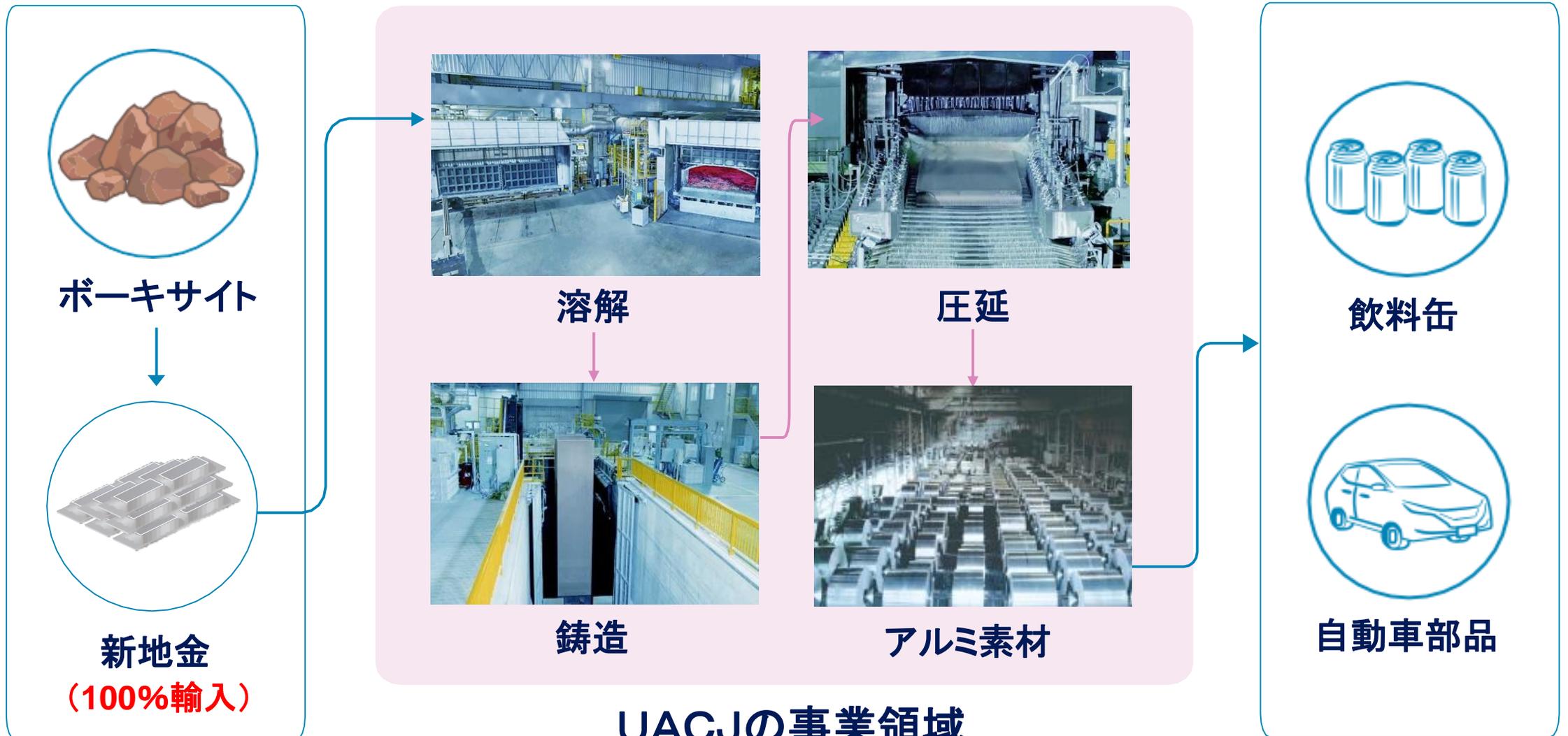
海外事業の 収益貢献拡大

- TAA: 収益大幅拡大
- UATH: 工場立ち上げ、収益拡大
- UWH: 戦略的投資の実施

FY2018~FY2023
事業利益*の推移



高度な鋳造・加工技術が強みに、お客様の多様なニーズに対応



UACJの事業領域

UACJが出荷するアルミの姿

板製品

アルミニウムを圧して引き伸ばし、
ロール状に巻き取って出荷



押出・加工製品

アルミニウムを型で押し出す等、
複雑な形状へ加工した“部品”を出荷



鍛造製品

叩いたり、型で圧縮して成形した“鍛造品”を出荷



アルミニウムの特徴



アルミニウムの活躍分野

アルミニウムの主な特長



軽い



強い



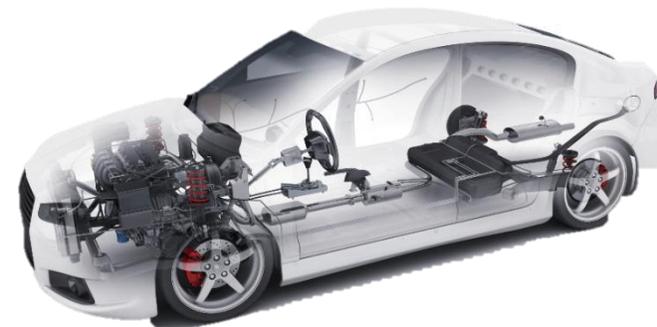
リサイクル性に
優れる

アルミニウムの活躍分野

飲料缶



自動車



航空・宇宙



IT機器



「リサイクル性に優れる」とは？



GHG*排出量

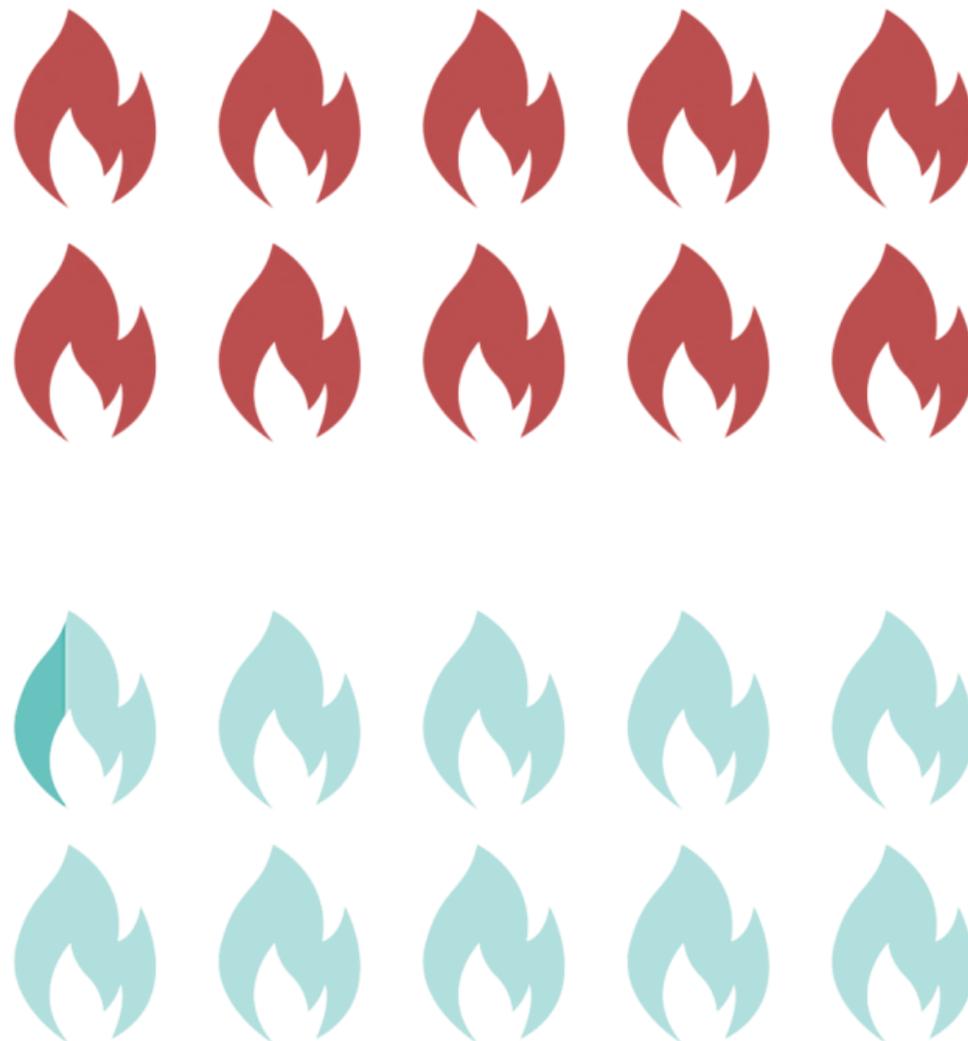
新地金製造時
(リサイクルしない場合)

100%とすると

97%減少

リサイクルした場合

3%



出所: 日本アルミニウム協会

*GHG 温室効果ガス、Greenhouse Gasの略称。

UACJの強み



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

UACJグループが有する主な強み

1

強固な顧客基盤

2

多様なニーズに応える設備と技術力

3

世界3極での生産・販売体制

強み 1. 強固な顧客基盤

1 長い歴史で培った顧客との信頼関係

- **600社以上の顧客**と強い信頼関係を構築
- 1,000以上の品種(板事業のみ)から、最適な製品を顧客に提供し、**国内での圧倒的なシェアを確保**

2 幅広いニーズに応える総合力

- **主要事業間の連携**による総合力で、顧客の生産プロセスを最適化するサービスを継続的に提供



強み 2. 多様なニーズに応える設備と技術力

1 UACJにしか生産できない製品

- 大規模な生産設備と、
高品質な製品を安定的に供給可能とする技術力

2 技術力の源泉、R&Dセンター

- 基盤技術から製品開発までトータルな研究開発を推進
- 複数の国家プロジェクトへ参画し、
新たなイノベーションの創出を目指す



強み 3. 世界3極での生産・販売体制

グローバルでの生産体制の確立と、地産地消のローカル戦略を展開



日本

: 強固な顧客基盤、事業間の連携による
多彩な加工力

生産量: 約 65万トン/年



福井製造所



名古屋製造所



深谷製造所



TAA

: 旺盛な北米需要の獲得

生産量: 約 45万トン/年



Logan Aluminum Inc. (米国)



UATH

: 東南アジア地域の基幹工場

生産量: 約 32万トン/年



UACJ (Thailand) Co., Ltd. (タイ)

アルミ板 品種別販売数量

その他 18%

IT材 1%

厚板 4%

箔地 3%

自動車材 9%



販売量
(2023年度)
120万トン

65% 缶材



2030年に向けて

素材提供企業から、「素材+ α 」の付加価値提供企業へ

The logo for UACJ, consisting of the letters 'UACJ' in a bold, blue, sans-serif font. The 'U' and 'A' are connected, and the 'C' and 'J' are also connected. There is a horizontal line underneath the letters.

Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

「2050年カーボンニュートラル」宣言（2020年10月）

日本

2030年度 $\Delta 46\%$ ※2019年度比
2050年度 ネットゼロ達成

- 温暖化への対応は、制約・コストではなく、「成長の機会」である
- グリーン成長戦略を推進し、企業の前向きな挑戦を後押しする
- 2050年カーボンニュートラルだけでなく、CO₂排出削減にとどまらない「国民生活のメリット」も実現する

120以上の国と地域で「2050年カーボンニュートラル」を掲げる

世界



中期目標
2030年 $\Delta 50\sim 52\%$
※2005年比

- クリーンエネルギー設備や製品への支援拡充
- エネルギー研究の加速
- 等



中期目標
2030年 $\Delta 68\%$
※1990年比

- 2030年までに25万人のグリーン雇用創出（Ten Point Plan）
- 洋上風力発電等、多様なエネルギー源からの調達目指す
- 等



中期目標
2030年 $\Delta 65\%$ 超
※2005年比
※GDPあたりCO₂排出量で

- 「カーボンピークアウトに向けた行動方策」を発表
- 経済社会発展にかかるすべてのプロセスや分野を横断し、具体策と目標を設定
- 等

カーボンニュートラル挑戦宣言

(2023年12月)

【Scope1, 2】

2030年度は30%^{*1}削減を目指す

2050年はカーボンニュートラルへ挑戦

【Scope3】

2030年度はリサイクルの拡大等により

30%削減^{*2}を目指す

2050年はサプライチェーンの様々なパートナーとの協業に取り組み、リサイクル最大化、かつサプライチェーン全体での**CO₂等のGHG^{*3}排出削減活動を行い、GHG排出最小化を目指す**

^{*1} 2019年度比・原単位

^{*2} 2019年度比・原単位、Category1

^{*3} 温室効果ガス。Greenhouse gasの略

UACJリサイクル率 達成目標設定

(2023年12月公表)

2030年度目標値

80%

(2019年度実績値65%)

(UACJリサイクル率定義)

*純アルミ(1000系、8000系)材を除く

*対象拠点は国内4製造所、タイ拠点

*循環アルミ量/溶解炉への装入量 × 100

*循環アルミ量... 製造業での素材の加工段階で発生するスクラップ+使用済み製品に由来するスクラップ+当社社内の全工程で発生するスクラップ

*溶解炉への装入量... 循環アルミ量+アルミニウム新地金+添加金属

UACJは、リサイクルを推進することによって

- 1) **低GHG排出資源(アルミスクラップ)の最大活用で低炭素化を推進**
- 2) **資源の循環により、地球環境の保全に貢献**

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献



当社を取り巻く市場環境と事業機会

当社を取り巻く市場環境

アルミニウム(資源)	<ul style="list-style-type: none"> ● 使用分野・領域の広がりに加え、環境意識の高まりにより、年率3%以上でグローバルの需要が増加
飲料缶	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧米では、環境意識の高まりにより、新興国では人口増・経済の好循環で需要が増加
自動車	<ul style="list-style-type: none"> ● 車体の軽量化ニーズに加え、環境対応ニーズが拡大 ● EVや自動運転によるアルミ板、押出材需要の増加
リチウムイオン電池	<ul style="list-style-type: none"> ● EV化にともなう電池領域での需要の増加
熱マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ● 新興国、欧州での空調需要の増加に加え、EV車載用途でニーズ拡大
航空宇宙防衛	<ul style="list-style-type: none"> ● 高品質な製品サービスの国産化ニーズの拡大
半導体	<ul style="list-style-type: none"> ● 半導体関連の需要増に加え、産業の国内回帰による設備投資が活性化

当社にとっての事業機会(素材+α)

缶材、自動車関連等の既存分野の拡大

- 消費者の環境意識の高まりによる、世界的な缶材需要の拡大
- 軽量化ニーズの拡大

アルミニウム循環型社会の拡大

- 需要が高まるアルミ缶材を中心としたリサイクルの更なる高まり
- 自動車関連分野を始めとする他の分野におけるリサイクルの高まり

付加価値素材、製品供給の推進

- 自動車の軽量化(EV、ハイブリッド等)の拡大
- 航空宇宙・防衛分野での高機能材料採用の高まり(航空宇宙・防衛材事業本部の設置)
- 熱マネジメント分野、半導体分野での需要の拡大

素材提供企業から、「素材+α」の付加価値提供企業へ

1

成長戦略・付加価値戦略

価値創出拡大による
収益の最大化と収益率の向上

2

事業の強靱化

筋肉質でしなやかな体質の強化

3

基盤の強化

価値創出と安定した
事業運営を支える基盤の強化

①

リサイクル推進

⇒リサイクル(缶材料、その他)

②

素材+加工ビジネスの拡大

⇒自動車、空調、熱マネジメント

③

先端分野のサプライチェーン安定化への貢献

⇒電池、半導体製造装置、航空宇宙・防衛

④

新領域の拡大

⇒モビリティ、ライフスタイル・ヘルスケア、
環境・エネルギー

リサイクルの取り組みを強化し、需要を牽引する新たなビジネスモデルを構築

- ✓ リサイクルしやすい素材の新規開発
- ✓ リサイクル関連設備等の立ち上げ
- ✓ お客様と協働し使用済みアルミ材の回収スキームを構築
- ✓ 新たな製品ブランドの構築

210

リサイクル原料使用量*

100

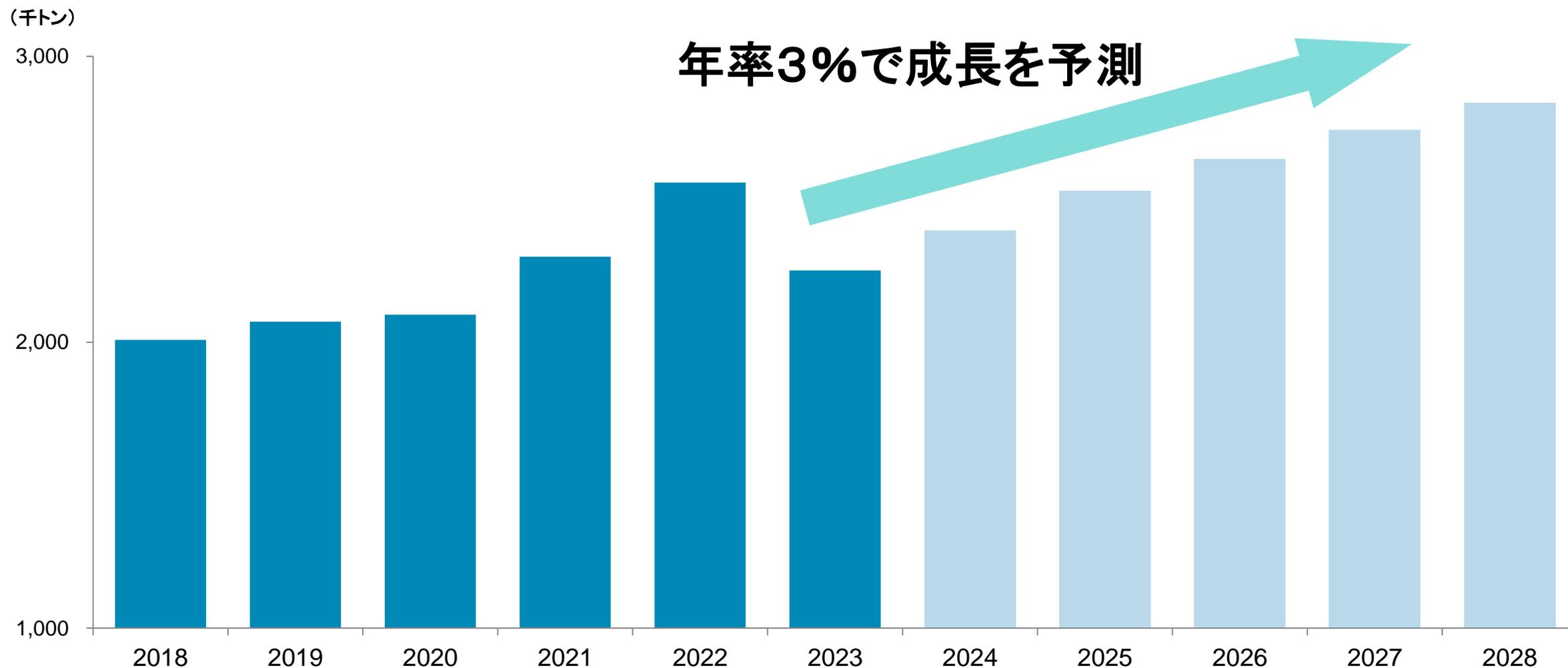
175

リサイクル原料 使用量拡大効果イメージ

FY19

FY27

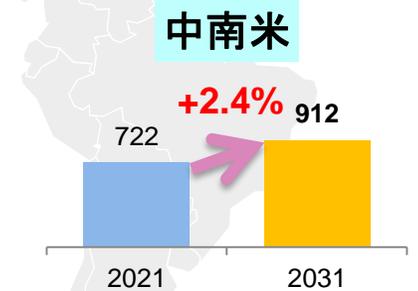
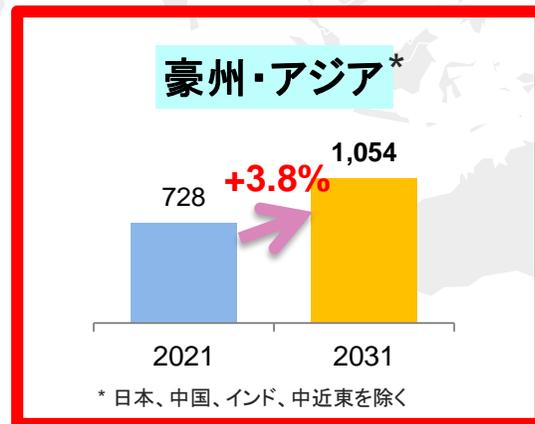
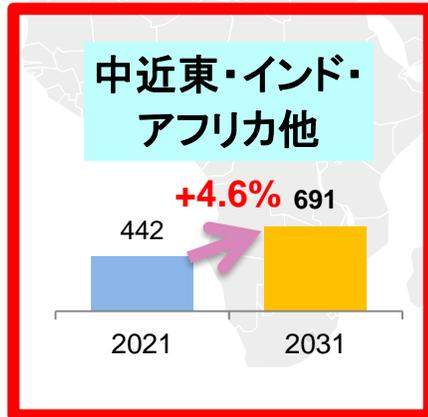
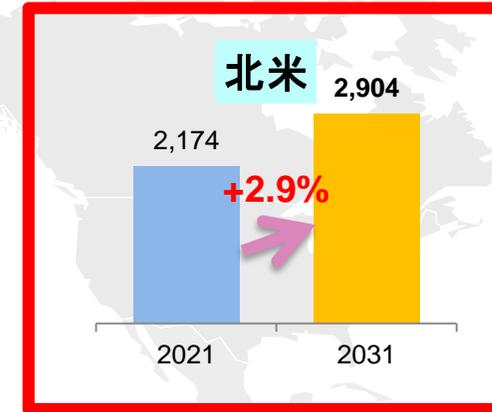
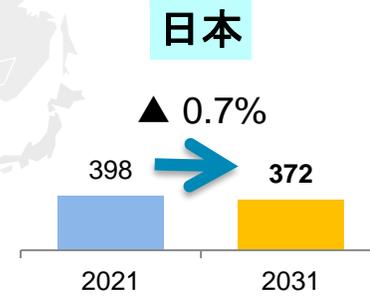
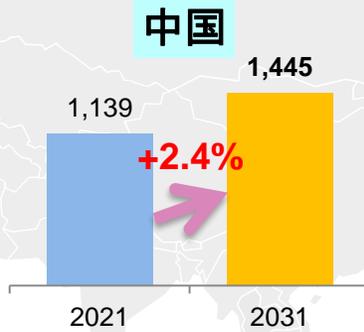
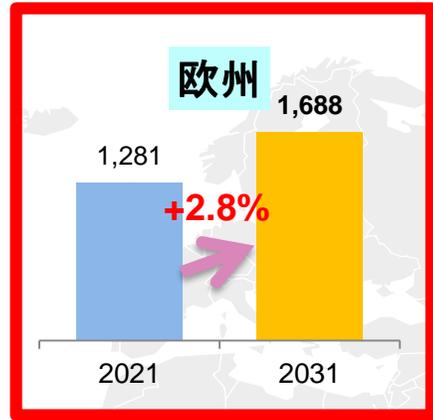
消費者の環境意識の高まり、新製品への“アルミ缶”採用で需要増



アルミニウム圧延材の需要予測

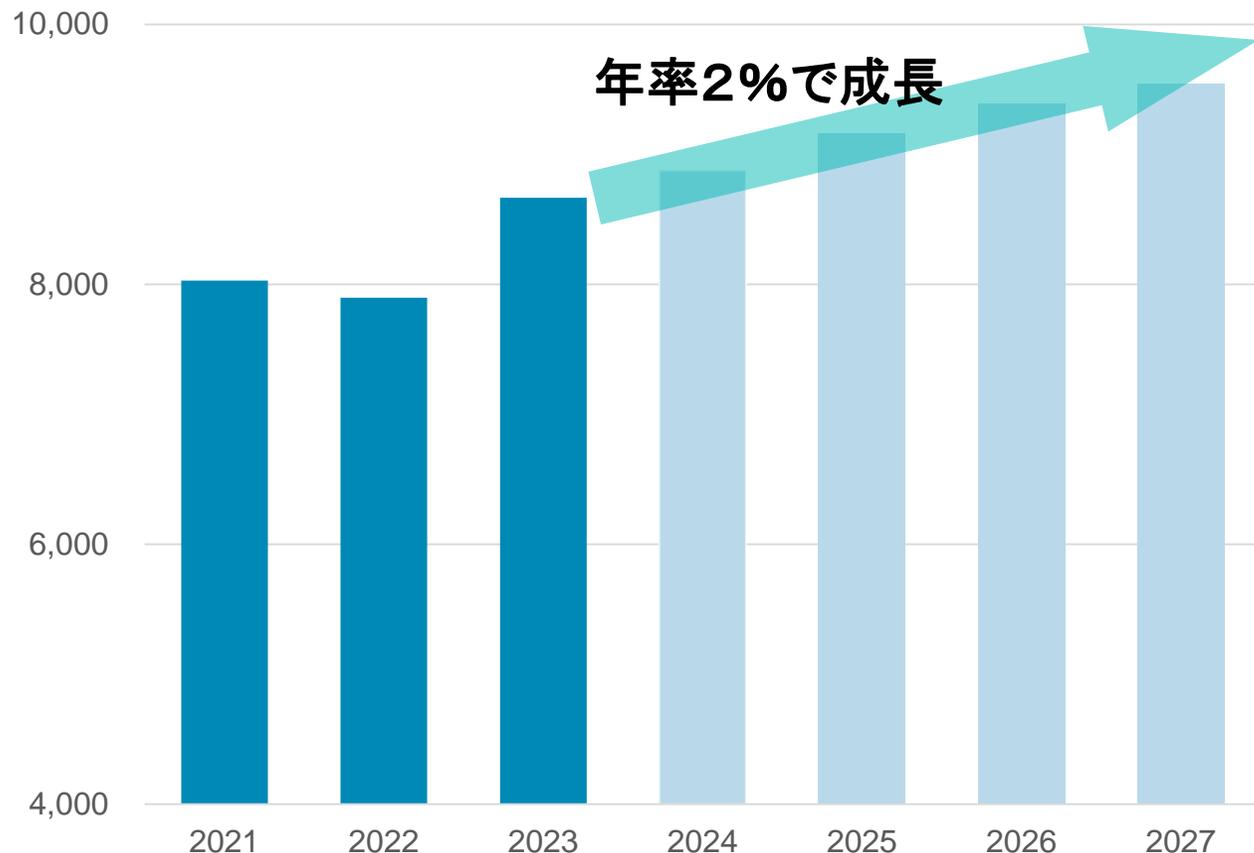
海外各国・地域で缶材需要が増加

(単位:千トン)
伸び率はCAGR

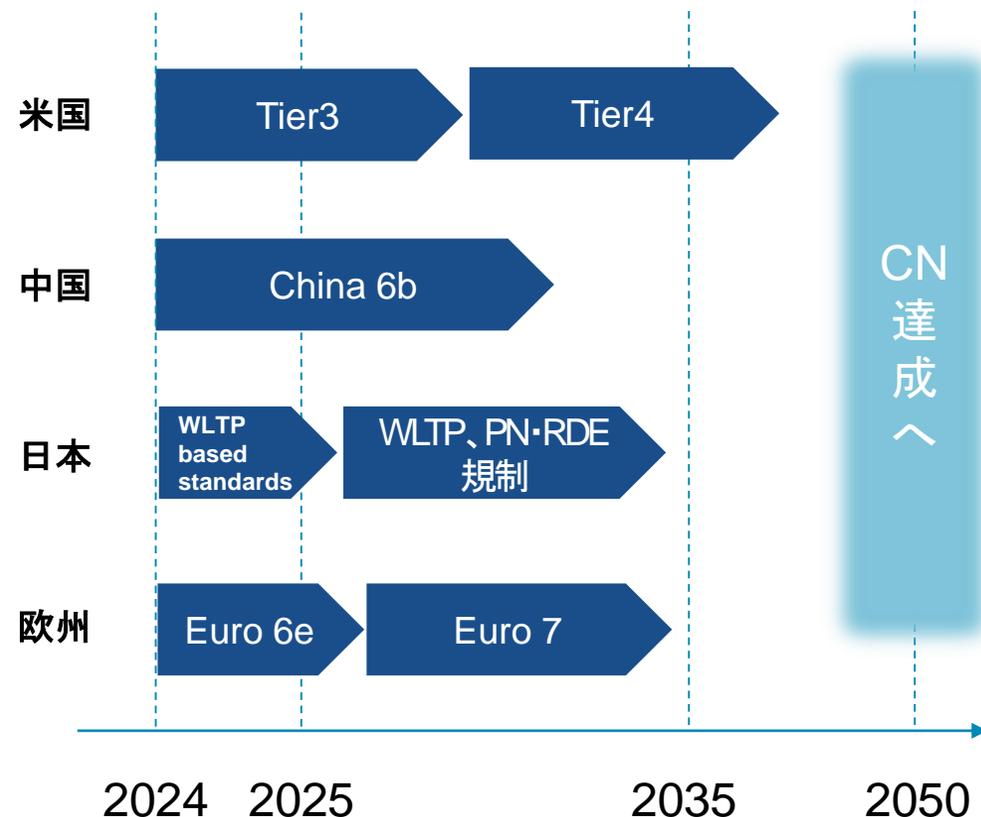


グローバルでの自動車市場は中長期で成長、脱炭素の要請も強まる

販売台数予測推移(万台)



各国の燃費規制スケジュール



素材の特徴を最大限に活かした「素材＋α(加工)」のビジネス拡大を目指す

UACJグループが納める自動車部品



合金開発から設計・加工までの
一貫量産体制をグローバル3極で構築

モビリティ・テクノロジー・
センター
(研究開発:名古屋)

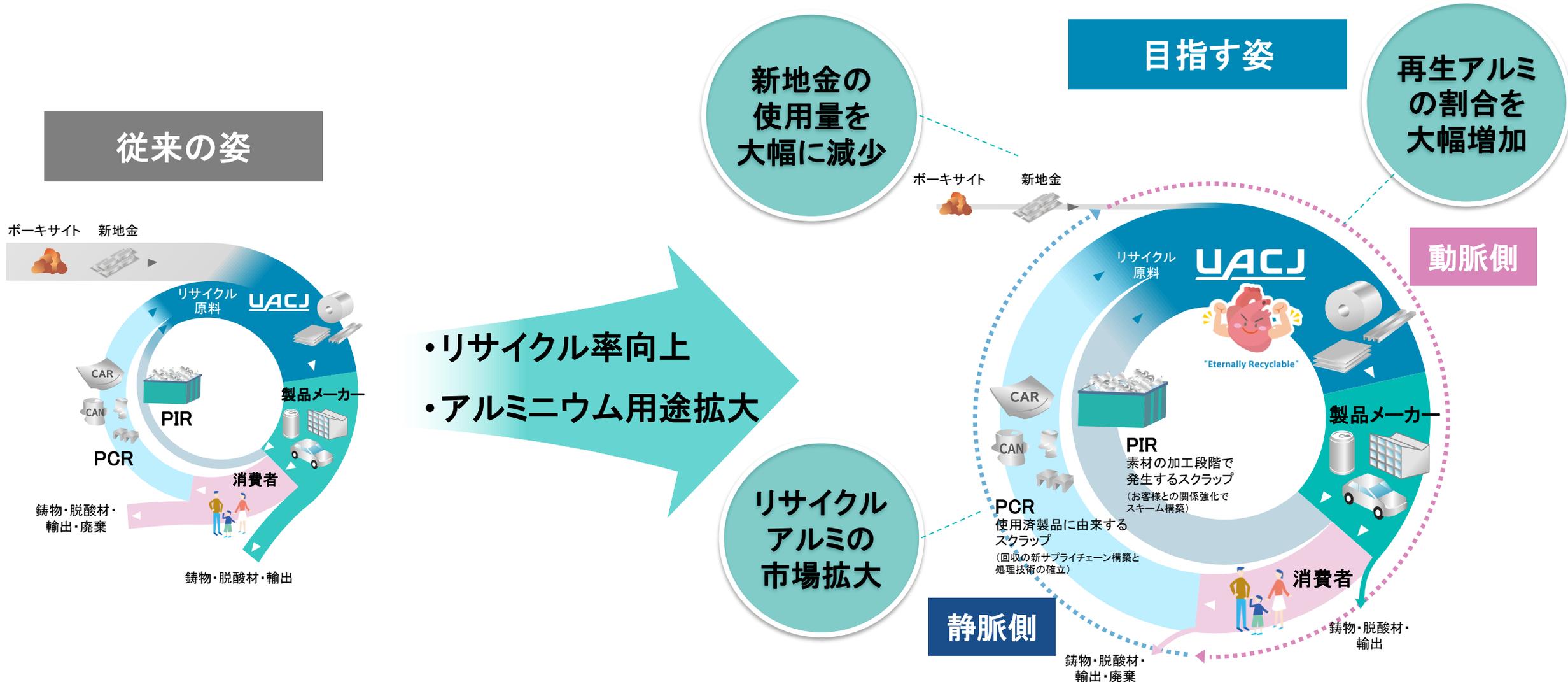


UWH
(製販:アメリカ)

DUB
(製販:中国)

UACJが目指す、アルミが循環し続ける社会

「アルミニウムの循環型社会」の構築を牽引

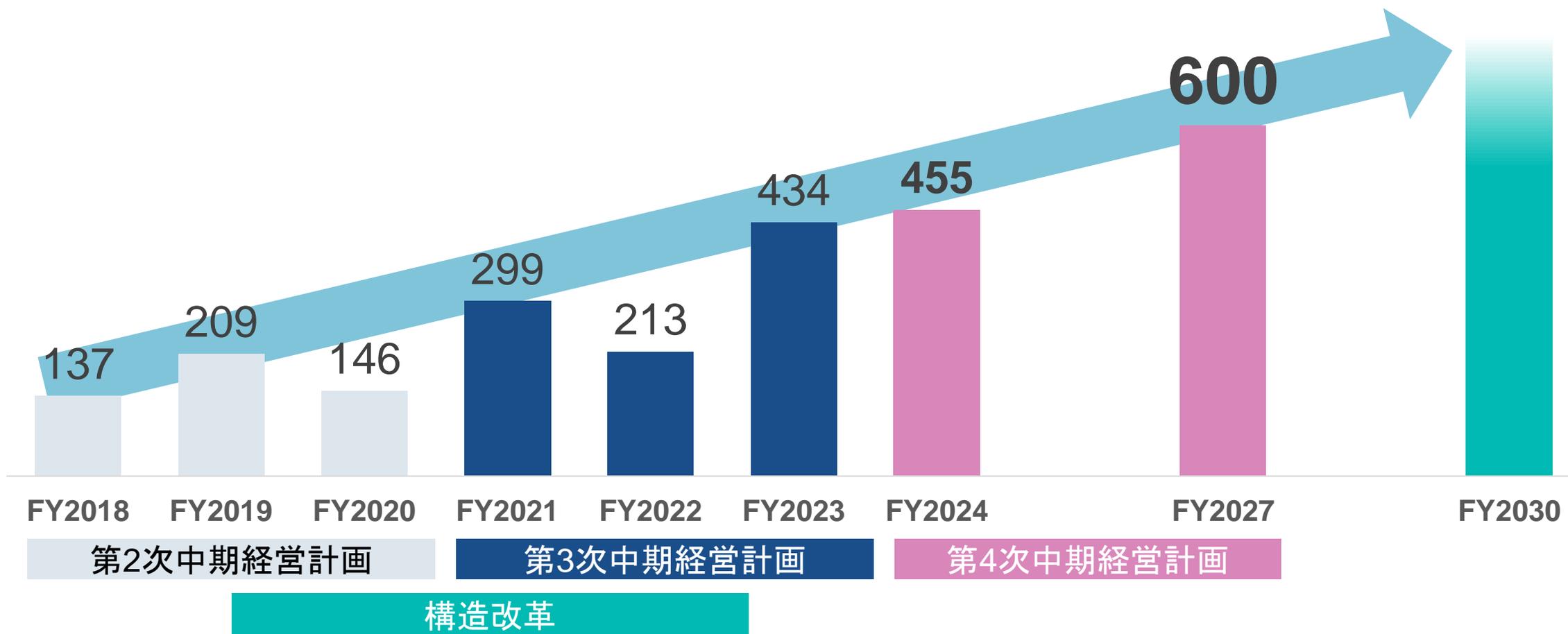


今後の事業利益 推移

事業利益

(億円)

持続的な事業活動の成果
営業利益から、アルミ地金の棚卸資産による影響等を控除したもの

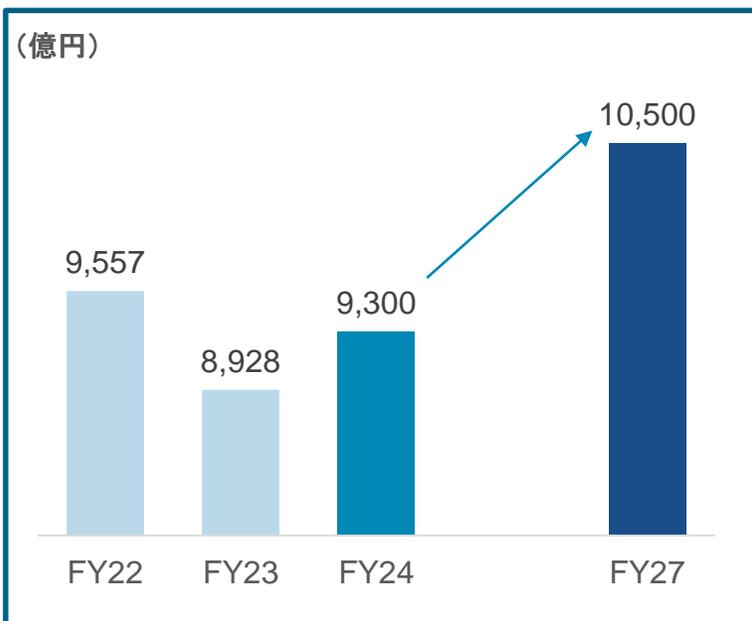


第4次中期経営計画 財務目標

27年度で 事業利益600億円、ROE 9%、ROIC^{*1} 9%以上を目指す

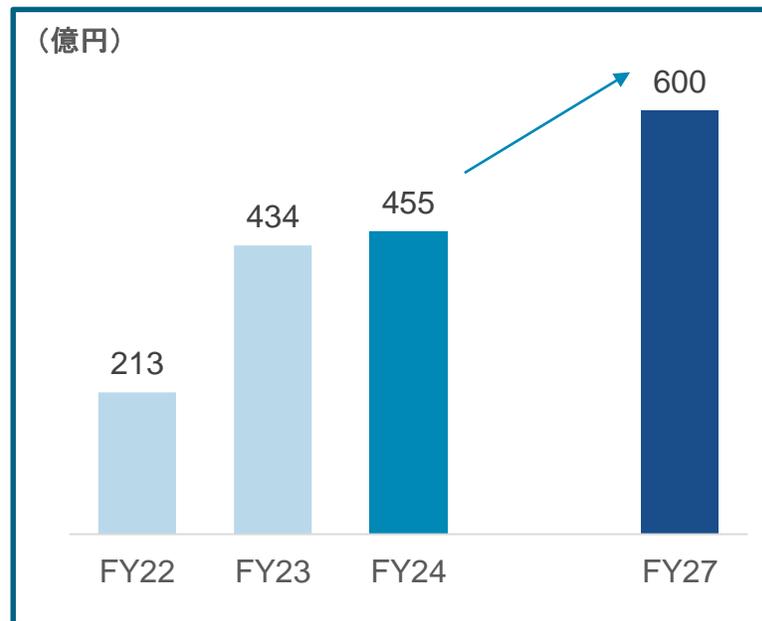
売上高

10,500

 億円

事業利益

600

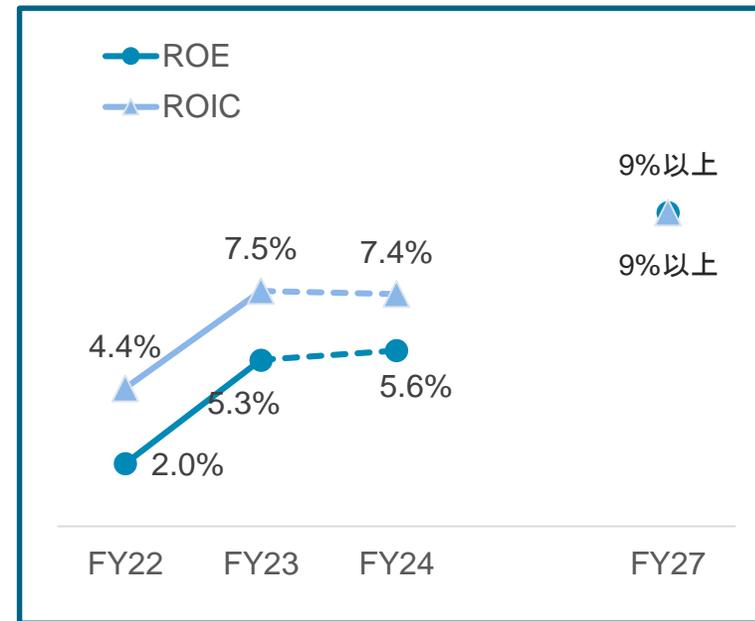
 億円

ROE

9%以上

ROIC

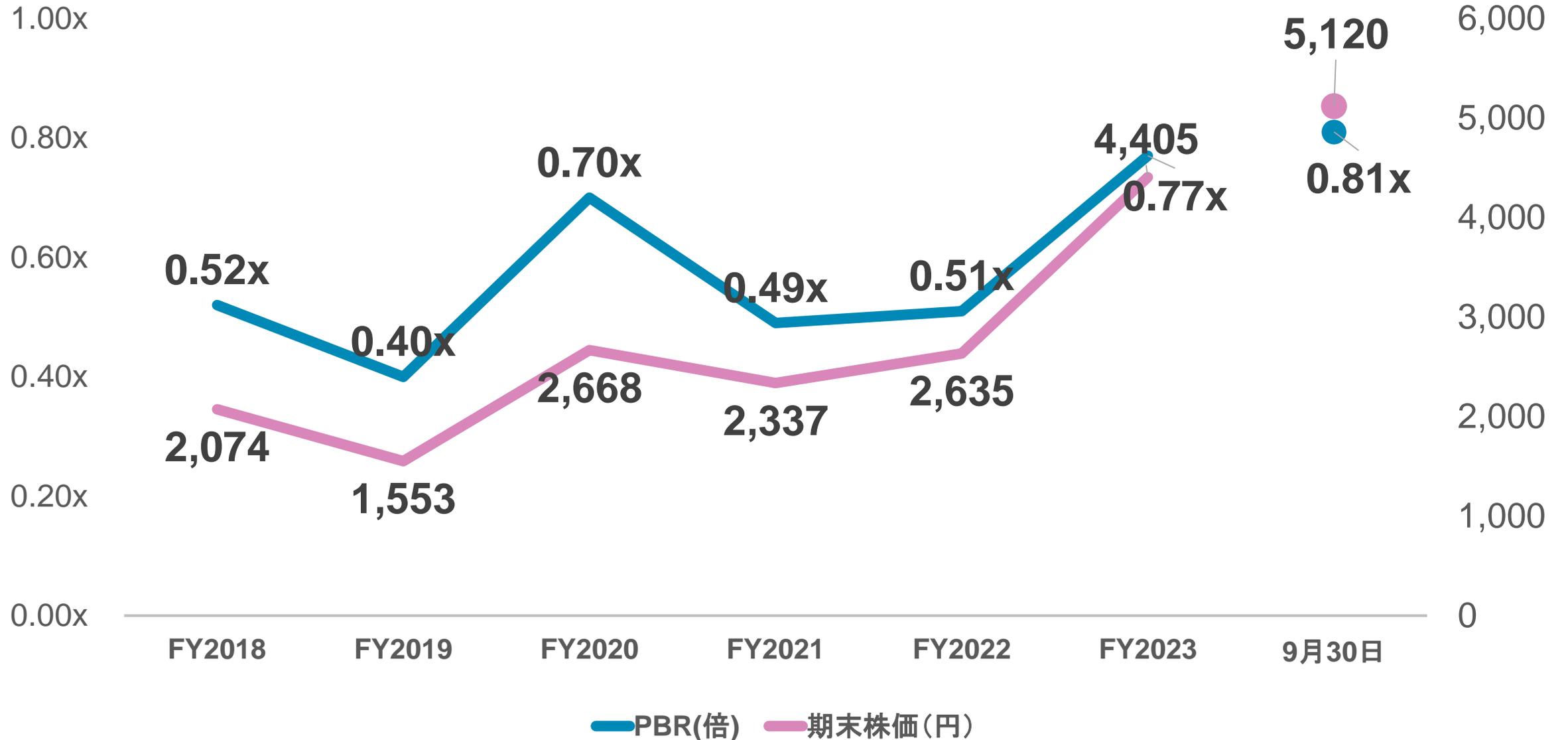
9%以上



*1 ROIC：事業利益を基に算出

*2 事業利益...UACJの「稼ぐ力」を示す指標。営業利益から棚卸資産影響等、一時的な損益を除いたもの

株価推移(2019年3月～2024年3月)



2024年度通期業績見通しサマリー

【通期事業利益見通し 概況】

事業利益 **434億円** ⇒ **455億円(+21億円)**
(2023年度実績)

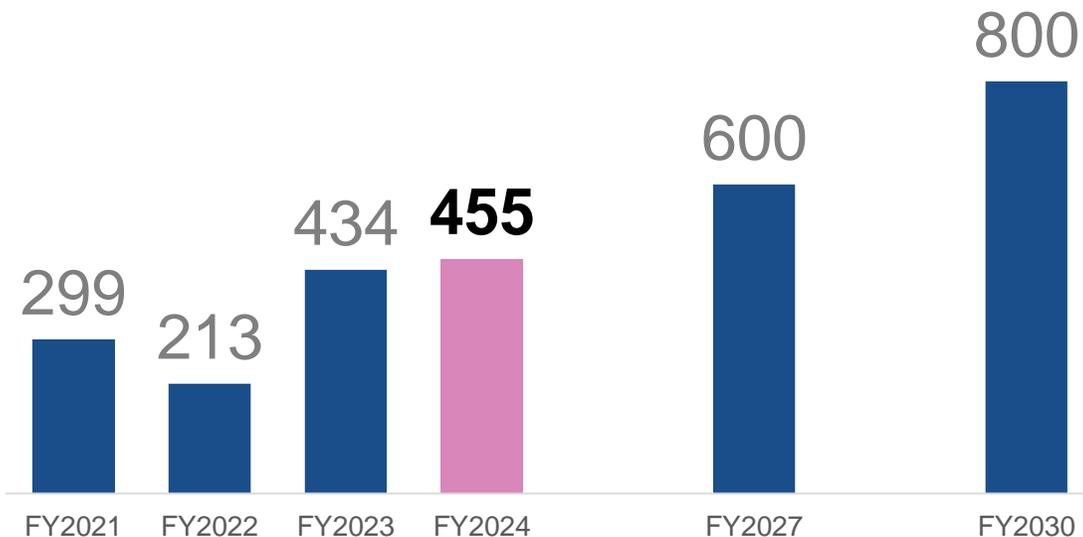
- 北米における缶材の需要拡大に応じた輸出の増加で、タイのグループ会社(UATH)が増収増益
- 国内の販売価格改定効果と順調な販売が貢献

【通期最終利益見通し 概況】

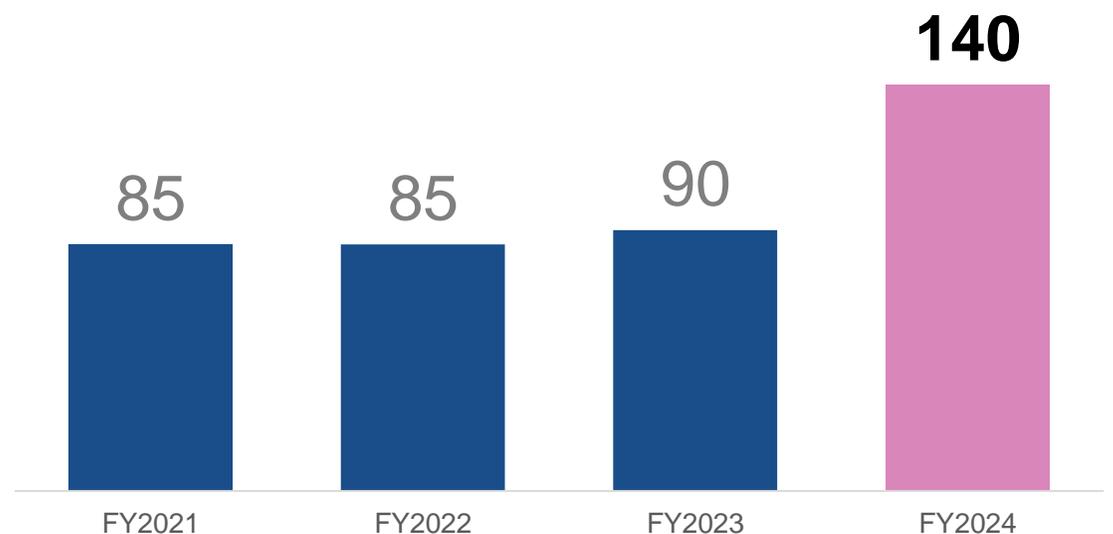
最終利益 **139億円** ⇒ **205億円(+66億円)**
(2023年度実績)

- 事業利益の増益
- 前年度からの棚卸資産影響の好転を想定

【事業利益(億円) 推移】



【1株当たり配当(円) 推移】



2024年度 通期業績見通し

売上収益	9,300億円
事業利益	455億円
棚卸資産影響等	10億円
営業利益	465億円
親会社の所有者に帰属する当期利益	205億円

配当政策

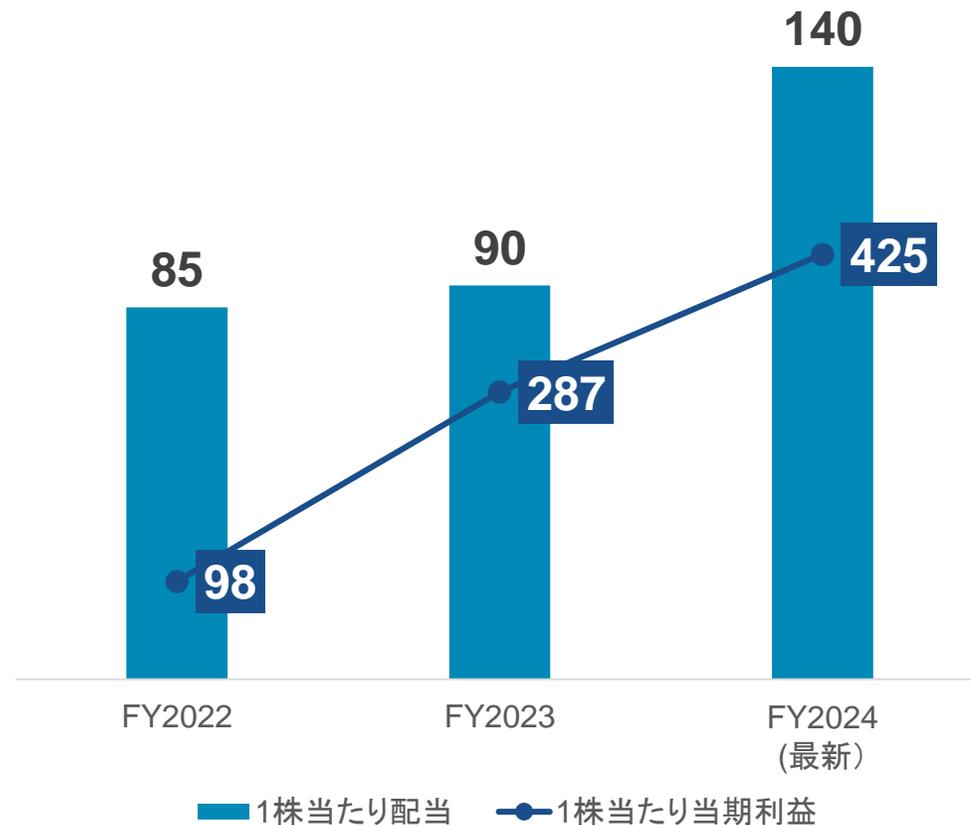
年間配当金を140円/株に増配(8月6日公表)。中間・期末の年2回配当を実施予定

第4次中期経営計画期間 還元方針

安定的かつ継続的な配当を目指す
配当性向 最終利益*30%以上

	2023年度		2024年度	
最終利益	139億円		205億円	
年間配当	90円		140円	
配当性向	31.3%		32.9%	
内訳	中間	期末	中間	期末
	45円	45円	70円	70円

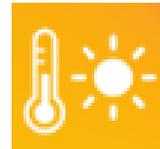
1株当たり配当(円)/1株当たり当期純利益(円)



その他 サステナビリティの取り組み



アルミニウムの循環型社会の牽引
(サーキュラーエコノミー)



気候変動への対応



自然の保全と再生・創出
(ネイチャーポジティブ)



人権の尊重



多様性と機会均等の浸透
(DE&I)



労働安全衛生



製品の品質と責任

※その他の指標、また詳細はHPをご覧ください https://www.uacj.co.jp/ir/policy/long_term_vision.htm

UACJは、軽量化効果やリサイクル特性を活かし、社会課題の解決に貢献していきます

アルミとあしたへ



将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。

また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料並びにIR関係のお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

財務本部 IR部

web-contact-ir@ml.uacj.co.jp

<http://www.uacj.co.jp>

(東証プライム 証券コード : 5741)



Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

